

## 16.物質関連障害および嗜癖性障害群

•修正日:2018.6.15

•作成者:谷口 秀樹

DSM-4 では物質関連障害のみでしたが、DSM-5 では他のどこにも分類されない衝動制御の障害に分類されていたギャンブル障害(病的賭博)が、この分類に含められました。

### ①.物質関連障害

\* DSM-4 では、最初に対象物質と共通診断(依存、乱用、中毒、離脱)の表があり、個々の物質関連障害の前に共通診断の記載がありましたが、DSM-5 では、表と共通診断の項目が無くなり、個々の物質関連障害の診断項目のみとなっています。

\* 個々の物質関連障害の診断項目の詳細は省略し、下表に物質名と対象となる障害の概要をまとめ、備考として、DSM-4 との違いと各物質の補足説明を記載しています。

DSM-4 と DSM-5 の主な違いは、以下のとおりです。

- カフェイン、大麻、幻覚剤の離脱などの障害の記述が追加されました。
- DSM-4 のアヘン類の表記がオピオイドに、ニコチンの表記がタバコに変わっています。
- DSM-4 では別々に記載されていた、アフェタミンとコカインが、精神刺激薬として一つにまとめられています。

No.	物質	使用障害	中毒	離脱など	備考
1	アルコール	4/5	4/5	4/5	DSM-4 と変化なし。
2	カフェイン		4/5	5	DSM-4 と変化なし。
3	大麻	4/5	4/5	5	
4	幻覚剤	4/5	4/5	5	フェンタニル <sup>*注1</sup> および他の幻覚剤。
5	吸入剤	4/5	4/5		炭化水素(ソナーなど)
6	オピオイド	4/5	4/5	4/5	モルヒネなどの麻薬性鎮痛剤。 * DSM-4 ではアヘン類に分類。
7	鎮静剤、睡眠薬 または抗不安薬	4/5	4/5	4/5	
8	精神刺激薬	4/5	4/5	4/5	アフェタミン、コカインなど。 * DSM-4 ではアフェタミンとコカインが個別記載されていました。
9	タバコ	4/5		4/5	DSM-4 ではニコチンで記載。

\*注1:フェンタニルとは解離性麻酔薬と呼ばれるもので、麻酔薬としての安全性は高いが、覚醒時の妄想や暴力的興奮などの副作用から、使用が断念され、代替品としてタミが開発されている。

### ②.ギャンブル障害

•過去12か月以内に持続的かつ反復的に問題賭博行動を繰り返す障害です。

\* DSM-4 では、病的賭博の名称で他のどこにも分類されない衝動制御の障害に分類されていました。

以上